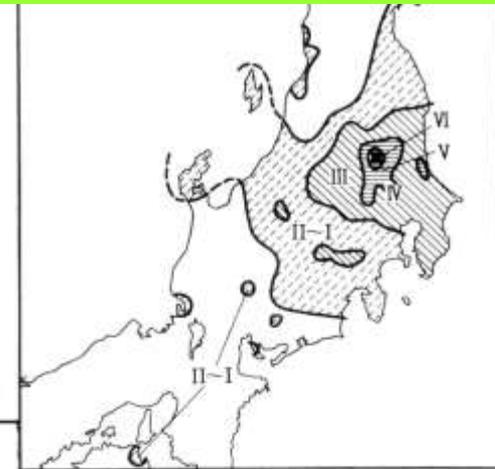


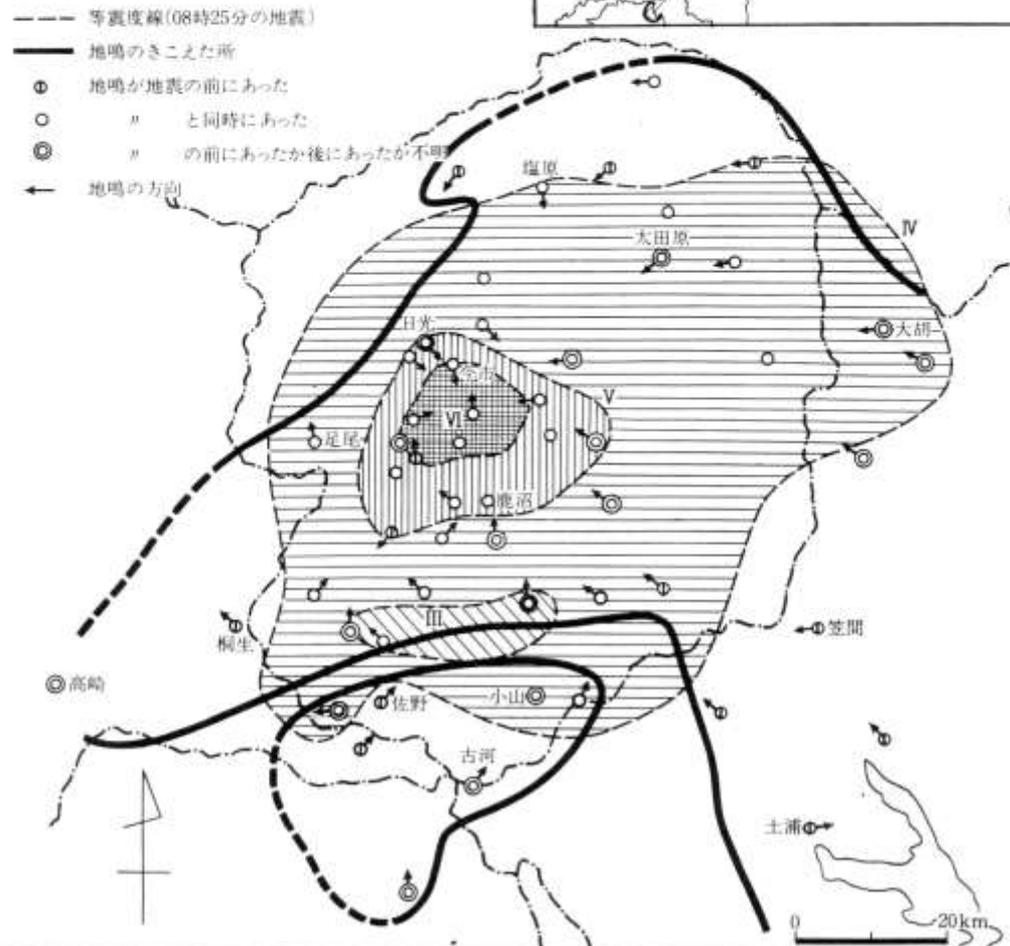
# 今市地震

1949. 12. 26.  
M6. 2, M6. 4 (極浅)

518 1949 XII 26 (昭和24) 08時17分, 08時25分 今市地方  $\lambda=139.7^{\circ}\text{E}$   $\varphi=36.7^{\circ}\text{N}$   $M=6.4, 6.7$   $h=\text{極浅, 極浅}$  今市地震 同程度の地震が2度続いて生じた。震央位置は両者とも同じで今市市付近。被害は518-1表のとおりで、山崩れの多いのが特徴。被害は比較的には、木造に小さく、石造および貼石木構造の倉等に大きい傾向を示す。518-3 図は被害率分布{(全壊+(半壊)/2+(一部破損)/3}/(全戸数)}で一部推定のところがある。この地震は通信調査が行なわれ、地鳴り(518-2図)・井戸水の変化(518-5 図) 等が調べられた。とくに518-4 図は地震の数日ないし数カ月前から地鳴りがあったという報告をまとめたもので、数字は何日前からかを示す。とくにMは月を意味する。大小さまざまな山崩れが生じた。そのうちおもなものは518-6 図にあり、大きいものは崩壊面積 8万 $\text{m}^2$ に達するが、大部分のものは数百 $\text{m}^2$ のものであった。地ざりと地質との関係が詳しく調べられた。また、井戸の調査から今市市を中心にする大谷川と赤堀川・田川に挟まれた地(約3.4 $\text{km}^2$ , 厚さ6~7m)が土地の傾斜方向に7cm移動したことがわかった。余震は多く518-7 図(本震を起点として24時間ごとの地震, 宇都宮測候所のウ式地震計による) および518-2 表のように減っている。また、臨時観測による余震の震央分布も518-8 図に示してある。地震後の測量の結果、震央付近で最大30cmに達する隆起があり、その周辺で多少沈降した。変動区域は半径10kmの範囲内のみである。

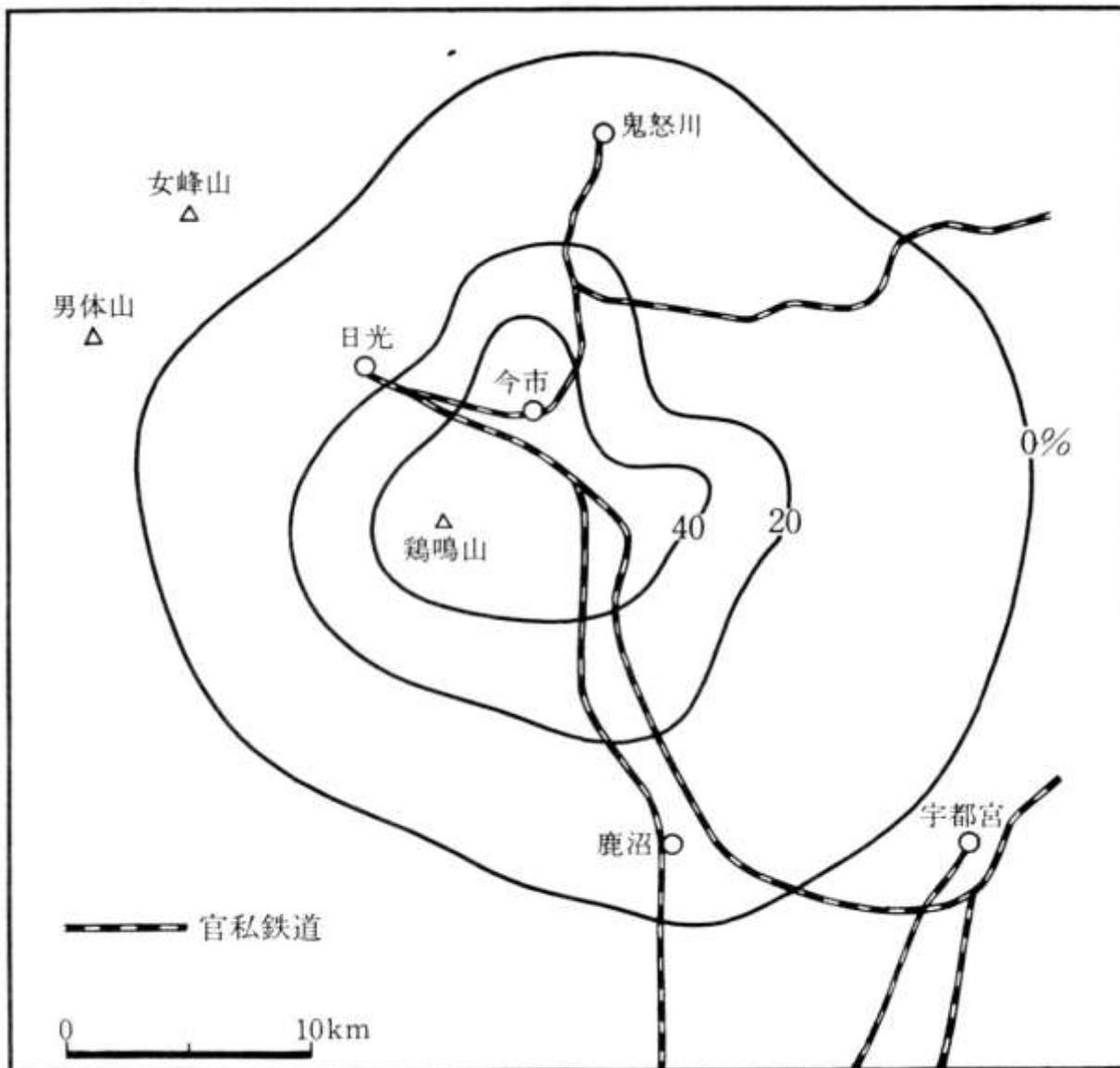


518-1 図 震度分布 [気象庁による]



518-2 図 震度分布と地鳴りの関係と地質 [加藤ほかによる, 1950]

# 被害分布



518-3 図 建物被害率分布 (単位：%) [宇都宮測候所による, 1950]

被害率は $[(全壊 + (半壊)/2 + (一部破損)/3) / (全戸数)]$ にて算出

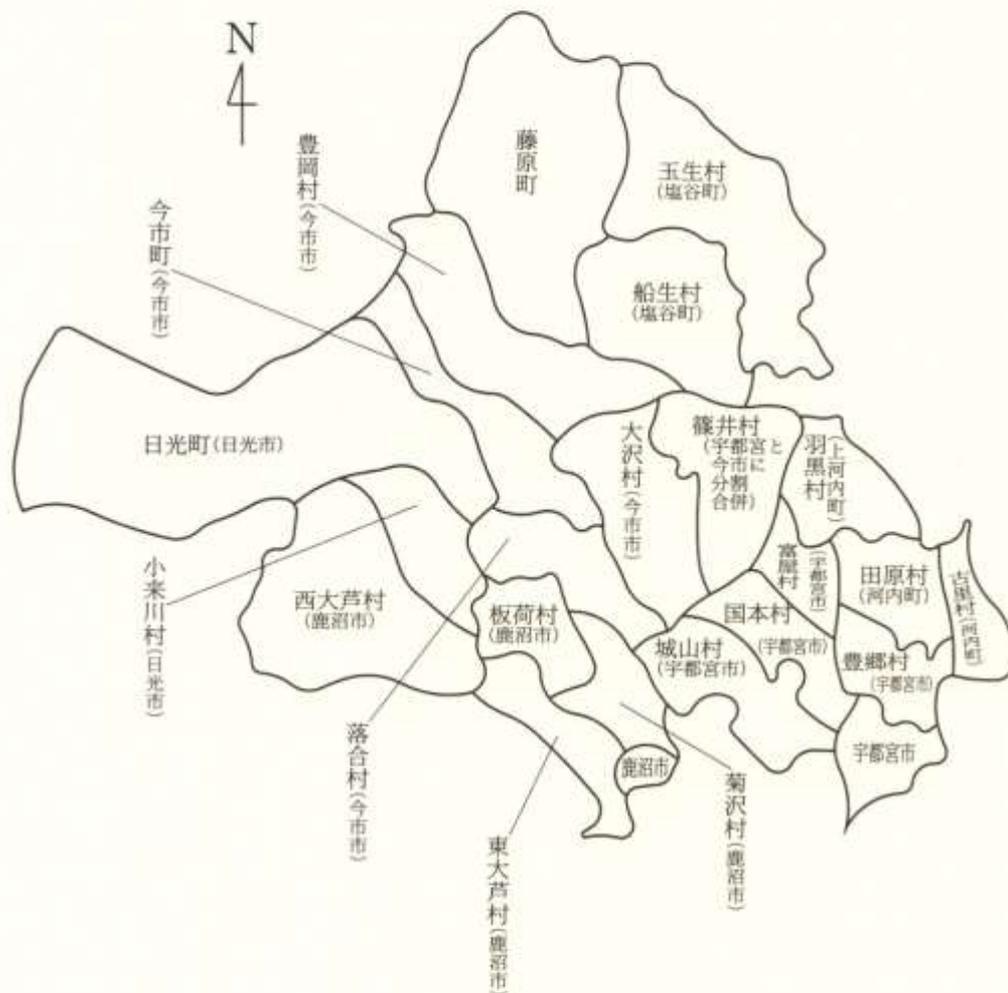
# 今市地震(1949)による被害の集計結果

今市地震に関する資料はすべて宇佐美龍夫著、資料 日本被害地震総覧(1975)に拠っている。

318-1 表

町 村 名	死	傷	住 家			非 住 家			山崩れに よる林地 崩壊
			全 壊	半 壊	一部破損	全 壊	半 壊	一部破損	
今 市	5	159	228	2,820	496	303	713	146	462.0
大 沢	1		1	9	134	58	163	212	
落 合	1		49	49		137	52	47	210.0
日 光	1		6	22	66	2	13	4	52.4
板 荷				2	200	9	49	250	22.0
篠 井				1	13	7	65		
豊 岡				62	750	82	1,200	2,200	
小 来			4	6		1	25	100	115.0
東 大			2	8		10	16		
西 芦	1			13					80.0
加 蘇						5	8		
舟 生	1	4			1	3	2	20	
大 宮				2					
菊 沢						1	1		
計	10	163	290	2,994	1,660	618	2,307	2,979	

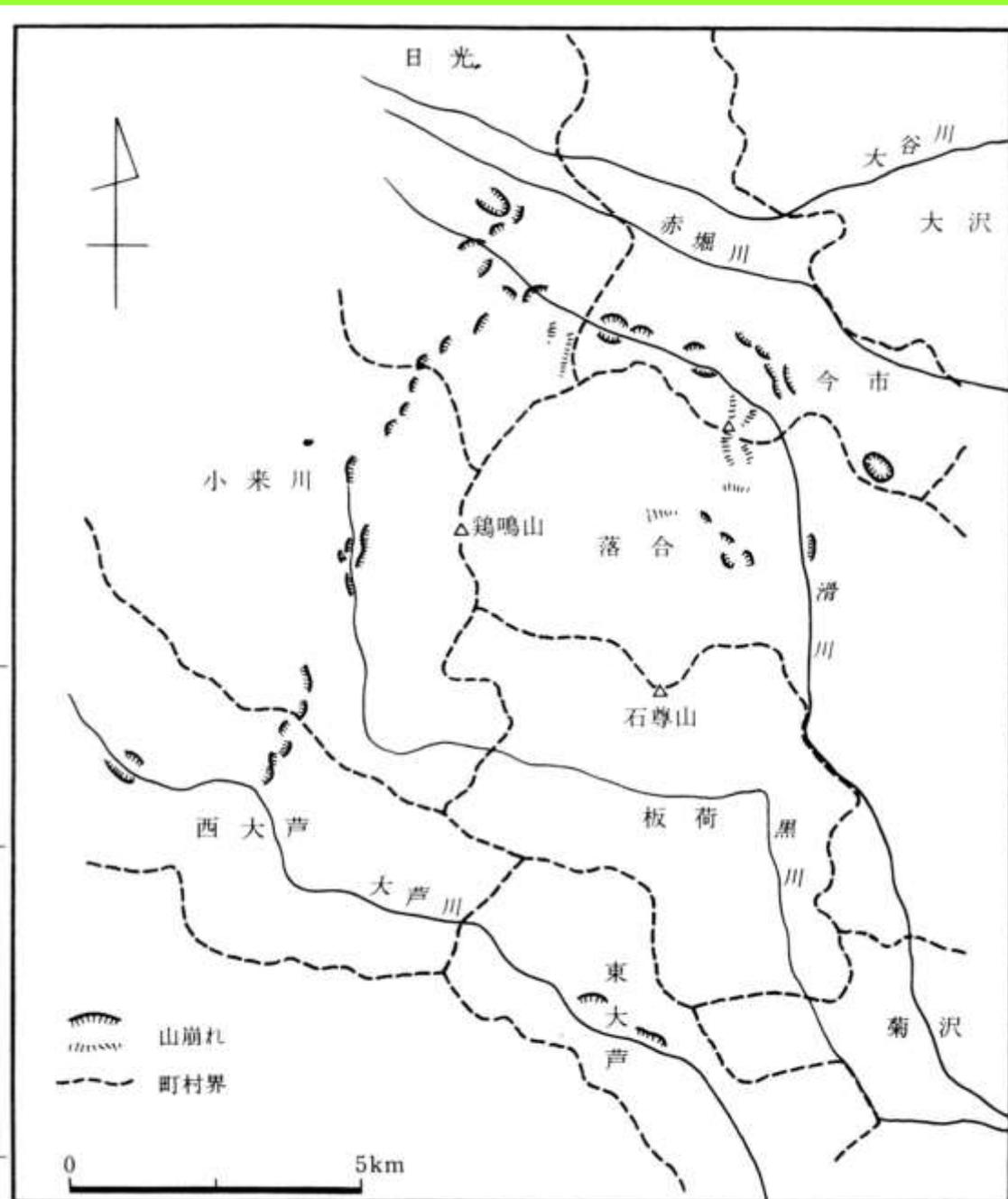
今市震災発生当時（昭和24年12月26日）の被害関係町村および  
近隣市町村の行政区分(カッコ内は平成11年1月1日現在の市町名)



# 今市地震当時の行政区分

- この本は昭和25年12月20日に発刊した「今市地方震災誌」を複製したものです。
- 当時の文体をできる限り生かしながら、旧字体等を読みやすく直しました。
- 市町村名は、当時の雰囲気伝えるため、そのまま表記しました。参考までに現在の地名との比較を上図に記します。

# 今市地震に伴う 山崩れの分布



518-6 図 山崩れ分布 [本多性かによる, 1950]

復刻版  
今市地方震災誌

写真でふり返る今市地震



道路にできた大きな地割れ

昨日 強震各縣を襲う

震源地は今市町附近  
二百六十年目の災難

行川沿岸 市が中心  
大層で行川断絶  
家屋殆んど傾斜す

行川部落の惨状  
山崩れで泥海と化す

杉並木四十二本倒る  
落合 全家屋の壁ゆるむ  
燈籠など破壊

罹災は二千二百名  
死者は八名に達す

高踏火災なし  
余計は心配なし

路線が決置  
車道新設し運輸

下野新聞

三ツツクリ

久利焼酎 久利は酒

激しいホット 2 サロメチール

# 当時の資料に残る被害写真



大きく壊れた省線（当時）今市駅



寸断された地割れ……これはまたなんと珍しい立木そのまま、寸断された震源地付近の山



白崖崩れて行川を堰き止める



室瀬行川沿岸全沢山の山津波



昭和32年 今市地方震災横死者供養塔  
(横死者10人の名を刻む)



商工祭執行中の地震前日十二月二十五日の今市町瀧尾神社大鳥居木曳式の盛況  
(祭典中日)

# 杉並木イラスト地図

旅人を暖かく見守ってきた杉並木。今でも人々の暮らし、にぎわい、息づかいを静かに語り継いでいるようだ。

